

災害に強い水道で、まちを守る

地震や豪雨などの災害が発生すると、水道施設や水道管が被害を受け、断水する恐れがあります。市では、浄水場や配水池の耐震化、応急給水体制の整備など、災害に備えた取り組みを最優先で進めています。ライフラインの水道設備が損傷したときにも、できるだけ早く水を届けられるよう備えています。



水道施設老朽化への対応

水道施設や水道管の中には、整備から40年以上が経過したものが多くあります。老朽化が進むと、漏水や事故のリスクが高まるため、新技術も導入しながら、計画的に老朽管の更新を進めています。



津山市上水道通水90周年記念式典

令和7年11月21日、小田中浄水場(小田中)で記念式典を開催し、市内外の関係者約40人が出席しました。

水道事業の発展に貢献した功労者の表彰や、災害や水道事故を想定した給水訓練のほか、次の世代に安定した水道事業を引き継ぐ願いを込めて、ハナミズキの記念植樹を行いました。



津山の水道を未来まで ~これからの水道を考えよう~



第3水源(加茂川合同堰)

人口減少が進み、水道の使用量や給水収入は減少していますが、水道は暮らしや命を支える大切なライフラインです。将来にわたって安全な水を届け続けるためには、効率的な運営に加え、状況に応じた負担のあり方について考えていく必要があります。

90年続いてきた津山の水道を次の世代へ引き継ぐために、水道事業の大切さを、もう一度考えてみませんか。



上水道通水90周年

暮らしを支える「水」、これからも...



通水90周年記念
マスコットキャラクター
「さくらっば」

津山市の上水道は、昭和9年12月に給水を開始し、90年の節目を迎えました。蛇口をひねれば水が出るという当たり前の暮らしは、長い年月にわたる整備と管理によって支えられています。この機会に、津山市の水道の歩みを振り返り、役割を改めて考えてみませんか。

閼水道局経営企画室 ☎ 32-2110

水道事業の歩み

昭和9年、小田中浄水場からの給水を開始しました。人口の増加や市域の拡大に合わせて施設を整備し、市町村合併や簡易水道の統合などを経て、安定した給水体制を築いてきました。現在では、市内ほぼすべての家庭に水を届け、給水区域内の水道普及率は99.9%です。

(令和6年度)

■給水人口 93,721人

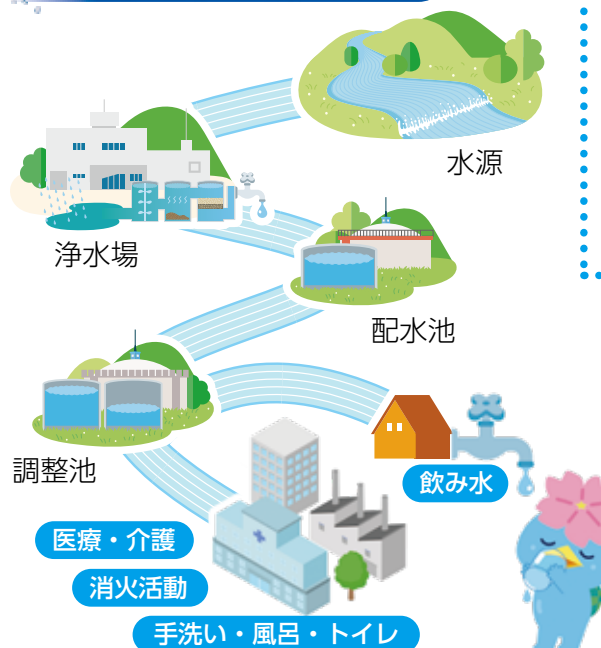
■1日1人当たり平均給水量 348L

500ml
ペットボトルで...



約700本分

水道水が届くまで



昭和4年(1929) 市制施行
昭和9年(1934) 給水開始



小田中浄水場



当時の設計図

管路延長 62.3km

昭和40年(1965) 水道局を設置
昭和50年(1975) 草加部浄水場完成
通水開始



草加部浄水場



水質測定装置

平成20年(2008) 緊急時連絡管完成
(小田中浄水場⇄草加部浄水場)

令和2年(2020) 災害対応ステーション開設

管路延長 1,148.8km

令和7年(2025) 上水道通水90周年

水道は、川や地下から取水した水を浄水場で安全な水に処理し、配水池や水道管を通して各家庭へ届けています。市では、約1,150kmに及ぶ水道管や複数の浄水場を管理し、24時間体制で水質の監視や施設点検を行い、安心して使える水を守っています。

水道水は、飲み水だけでなく、暮らしのあらゆる場面に欠かせない存在です。